

0560 | 造形基礎 I

2 単位（通信授業 2 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、小島隆三講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星晃講師、山本明比古講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

美術の表現の基底には、常に私達の現実の身体がある。私達の手と身体はそこから様々な表現が紡ぎ出される源である。ここでは手と身体を使ったドローイングを行うことにより、そこから湧き出る多様な表現と身体の間わりを理解し認識を深める。通信授業では、線を引くことから始め、描くこと、イメージトレーニング、コンセプト・ドローイング、偶発的効果によるドローイング等の実践を通じて、造形の基礎を再認識する。

課題の概要

○通信授業課題

- 1-1 自分の身体より大きな模造紙にドローイングする。
- 1-2 1枚の模造紙にドローイングした後、紙面上より気に入った部分（B3サイズ）を切り取る。
また、その部分を切り取った理由を200～400字で解説する。
- 1-3 音楽を聴きながら帯状の長い紙にドローイングする。
- 1-4 かつて自分が訪れた場所（自然界や街）の記憶や印象をもとにしたイメージをドローイングする。
また、その記憶や印象の内容を200～400字で解説する。
- 1-5 デカルコマニーをもとに、ドローイングを加え発展させる。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『造形基礎 I～IV 平成30年度』の「造形基礎 I」を参照。
教科書『造形基礎』の「造形基礎 I 手と身体／ドローイング」を参照。

成績評価の方法

通信授業課題による評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1年次

[履修条件] なし

[備 考] 必修科目（3年次編入学生を除く）。

1年次に履修すること（2年次編入学生は2年次）。3年次編入学生は必修ではない。

教材等

教科書：『造形基礎』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

学習指導書：『造形基礎 I～IV 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

0570 | 造形基礎 II

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、大浦一志教授、原一史教授、樺山祐和教授、阿部英幸講師、小島隆三講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星見講師、松村繁講師、山本明比古講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

観察と描写、つまり具体的な対象を目の前にし、見て描くことを行う。その際「このように見なければならぬ。」あるいは「このように描かなければならぬ。」という一般通念的な先入観を持たないよう意識し、見えている像と描いている像を出来る限り近づける過程を通じて、現在の自分がどのように対象を見ているかを確認してみることがこの課題の目的である。また、対象の克明な追求により「見ること」「描くこと」の基礎体力を養い、基本的な造形要素の理解を深め、描材との接触を通じて描くことを体験する。

課題の概要

○通信授業課題

1-1 自分の頭部をデッサンする。

1-2 自分の手をデッサン、クロッキーする。

○面接授業課題

焦がした立方体または直方体の木材を描く。B2 以上の画用紙または木炭紙。描画材は基本的に鉛筆、木炭。その他コンテ、水彩絵具等の併用可。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『造形基礎 I～IV 平成 30 年度』の「造形基礎 II」を参照。

教科書『造形基礎』の「造形基礎 II 観察と描写」を参照。

[面接授業]

第 1 日 午前：課題説明・制作 午後：制作（焦がした立方体または直方体の木材を描く）

第 2 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

OLP オンラインプラス [準備] 一面接授業事前説明動画配信

Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1 年次

[履修条件] なし

[備 考] 必修科目（3 年次編入学生を除く）。

1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。3 年次編入学生は必修ではない。

地方会場でのスクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

教材等

教科書：『造形基礎』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『造形基礎 I～IV 平成 30 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）

0580 | 造形基礎 III

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

白尾隆太郎教授、大浦一志教授、原一史教授、山本靖久教授、高崎葉子講師、山本晶講師、木多美紀子講師、野崎麻理講師

授業の概要と目標

造形基礎Ⅲ「感情と色彩」では、色彩の原初的体験と色彩の対比について学ぶ。色は、光が物に当たり反射することによって脳が感じている光の波長である。物質の性質の違いによって私たちには異なった色として見えるが、そんな色に対して私たちは子どもの頃から「美しさ」や「面白さ」を感じ、花や木や太陽をクレヨンなどの色材を使って描いたりしてきた。色は、私たちに様々な感覚や感情を抱かせる魅力的な要素なのである。

通信授業課題では、様々な素材の色を採取する。恣意的に色を選択するのではなく、自然からものを選び、その色の特長や色の組み合わせに美しさや面白さを感じながら、新しい色を発見することが目的である。面接授業課題では多人数の中での課題制作を通して、たくさんの色彩表現の可能性を体験することになるだろう。

色彩は美術やデザインを学ぶものにとって、形の修練と並んで大切な要素であり、原点に立ち返って様々な色を体験して欲しい。たくさんの色を経験することによって得られた色彩表現の可能性は、必ずやこれから進む分野で生かされることだと思われる。

課題の概要

○通信授業課題

1-1 色のレシピ

1-2 色のハーモニー

○面接授業課題

感情と色彩表現に関連した課題制作を行う。自由な描画方法により、各自がそれぞれの色彩による感情表現を学習する。

授業計画

[通信授業]

教科書『造形基礎』の「造形基礎Ⅲ 感情と色彩」を参照。

学習指導書『造形基礎Ⅰ～Ⅳ 平成30年度』の「造形基礎Ⅲ」を参照。

[面接授業]

第1日 午前：課題説明とワークショップ 午後：制作

第2日 午前：制作 午後：制作・講評

○LP オンラインプラス [準備] ー面接授業事前説明動画配信

Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

成績評価の方法

[通信授業] 通信授業では課題 1-1 と 1-2 をそれぞれ個別に採点し平均の評価とする。

[面接授業] 面接授業の評価はエスキース、スケッチを含めた全体評価とする。
科目の評価は、通信授業と面接授業の平均とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1 年次

[履修条件] なし

[備 考] 必修科目（3 年次編入学生を除く）。

1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。3 年次編入学生は必修ではない。
地方会場でのスクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：『造形基礎』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：学習指導書『造形基礎Ⅰ～Ⅳ 平成30年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）

その他

オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

0590 | 造形基礎 IV

2 単位（通信授業 2 単位）

牧野良三教授、富谷智講師、竹中義明講師、生川清孝講師

授業の概要と目標

我々が暮らす環境は、様々なモノとモノとが互いに関係しあいながら、水平、垂直的な広がりを持って機能し我々の関係を支えている。これを造形的な視点で言い換えれば、様々な立体が空間とよばれる広がりの中で構成され、多様な世界を作り上げている。とすることが出来る。また、立体を認識し、空間を実感するには、光の存在を抜きに語ることは出来ない。

造形基礎IVでは、自ら作り出した立体を空間に構成し、光を照射することで生まれる空間の様々な表情を、各々の段階で観察し、記録する。立体と空間、光と影、そこから生まれる豊かな空間の表情を探ることは、各々の関係を考察することである。

空間に対する認識を深め、美しい空間の表情を発見しその可能性を追求することがこの科目の目的である。

課題の概要

○通信授業課題

1-1 紙の造形

切り出された紙片からパーツを作り、立体的に組み合わせ配置することで立体や空間の可能性を探る。

1-2 空間を描く

立体構成によって生まれる光と影の美しい空間を発見し、平面に定着させる。

授業計画

[通信授業]

教科書『造形基礎』の「造形基礎IV 立体から空間へ」を参照。

学習指導書『造形基礎I～IV 平成30年度』の「造形基礎IV」を参照。

成績評価の方法

各課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1年次

[履修条件] なし

[備考] 必修科目（3年次編入学生を除く）。

1年次に履修すること（2年次編入学生は2年次）。3年次編入学生は必修ではない。

教材等

教科書：『造形基礎』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

学習指導書：学習指導書『造形基礎I～IV 平成30年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

0600 | デッサンI

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小島隆三講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星晃講師、山本明比古講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

人間を描く。造形性を学ぶ上で、人物は最も適した対象の一つである。人間の形は限定されたものでありながら、その動きや姿勢によって形の変化は無限であり、その複雑さ、微妙さはとても魅力的である。

通信授業では、自分や家族を描き、面接授業ではモデルを使い、人物の骨格や形態、フォルムの美しさ、生命力などの把握を目指す。

課題の概要

○通信授業課題「家族・自分を描く」

1-1 家族・自分をクロッキーする。

1-2 「1-1」と同モチーフをデッサンする。

○面接授業課題「人間を描く」

1-1 人体（ヌード及びコスチューム）をクロッキー・デッサンする。B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆または木炭。2 点提出。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『デッサンI・II デッサン研究 平成30年度』の「デッサンI」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第1章「デッサン・油彩」等を参照。

[面接授業]

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（人体を描く）

第2日 午前：制作 午後：制作

第3日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

学習指導書：『デッサンI・II デッサン研究 平成30年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

0610 | デッサンⅡ

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小島隆三講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星晃講師、山本明比古講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

自然（風景）は変化に富み、我々に様々な感動を与え、諸々の感情を呼び覚ましてくれる。しかし、これを絵として定着させるためには、このような感動の背後にある造形的な根拠を理解することが必要になる。目の前に広がる我々の住む世界をどう認識し、絵画としてどう捉えて行くかを探究する。

通信授業では、自分の住む町の風景を描き、面接授業では、大学構内風景を描く。

課題の概要

○通信授業課題「自分の住む町」

1-1 自分の住む町をモチーフにクロッキーする。

1-2 「1-1」と同モチーフをデッサンまたは油彩で制作する。

○面接授業課題「風景を描く」

1-1 大学構内風景をデッサン（鉛筆淡彩可）または油彩で制作する。デッサンの場合は B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆、水彩または木炭。油彩の場合、15～20 号キャンバス。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『デッサンⅠ・Ⅱ デッサン研究 平成 30 年度』の「デッサンⅡ」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 3 章「水性絵具」等を参照。

[面接授業]

第 1 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（風景を描く）

第 2 日 午前：制作 午後：制作

第 3 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「デッサンⅠ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（2、3 年次編入学生を除く）

[備 考] 「デッサンⅠ」、「デッサンⅡ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合など順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『デッサンⅠ・Ⅱ デッサン研究 平成 30 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）

2150 | デッサン研究

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小島隆三講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星晃講師、山本明比古講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

デッサンとは、単に物の形をなぞることではなく、対象の存在と描く側の存在との関係の中で、感覚的な受容と知的な分析を通して行う総合的創造作用である。どのようなモチーフであっても、それを選んだ者の内面が反映されていて、対象を見つめることは自分自身と向き合うことでもある。

通信授業では、自分自身を投影できるモチーフを選び、時間をかけて観察し追求することで、自分自身の再発見を目標とする。面接授業では、人体（裸婦）を対象に、人間の体を生動する一つの生命体として捉え、デッサンによる新たな人体表現の可能性を学ぶ。

課題の概要

○通信授業課題「モチーフとの対峙」

1-1 日用品や野菜、果物など、身近にあるもので最も描きたいと思えるモチーフを選び、クロッキーする。

1-2 日用品や野菜、果物など、身近にあるもので最も描きたいと思えるモチーフを選び、デッサンする。また、モチーフを選んだ理由を 200～400 字で解説する。

○面接授業課題「モチーフとの対峙」

1-1 人体（裸婦）をデッサン（水彩等の併用可）または油彩を制作する。デッサンの場合は B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆、透明水彩、ガッシュ、アクリル絵具等、または木炭。油彩の場合は 20～25 号キャンバス。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『デッサン I・II デッサン研究 平成 30 年度』を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 3 章「水性絵具」等を参照。

[面接授業]

第 1 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（人体を描く）

第 2 日 午前：制作 午後：制作

第 3 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『デッサン I・II デッサン研究 平成 30 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）

0620 | 絵画研究 I

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、吉川民仁教授、川口起美雄教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大野彩講師、大家泰仁講師、小島隆三講師、加藤健二講師、喜井豊治講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、山本明比古講師、米内則子講師

授業の概要と目標

西洋中世からルネサンス期に至るまでの主要な絵画技法であったテンペラ画を中心に、古典技法のフレスコ、モザイクや、中世ゴシック期に花開いたステンドグラスを体験学習することにより、単なる技法の習得に止まらない、素材と表現の在り方を通して造形表現の広がり学ぶ。

通信授業では各技法の基礎と理論を学ぶと共にデッサン及びアクリル絵具、ガッシュ（不透明水彩）による着色をともなったデッサンが課せられる。面接授業では、テンペラ、フレスコ、モザイク、ステンドグラスの4つの技法から1つを選択し、実習を通して学ぶ。

課題の概要

○通信授業課題「古典技法で描く」

1-1 身のまわりの物をモチーフにクロッキーする。

1-2 1-1で行ったクロッキーを基に、着色した画用紙又は色画用紙に、鉛筆と白い描画材（コンテ、パステル、色鉛筆など）でデッサンする。

1-3 植物や樹木あるいは食物をモチーフにクロッキーする。

1-4 1-3で行ったクロッキーを基にアクリル絵具又はガッシュ（不透明水彩）による着色をする。

○面接授業課題「古典技法等の実習」

1-1 「古典技法」等の実習を通して素材と表現の在り方を学ぶ。テンペラ・フレスコ・モザイク・ステンドグラスの4つの表現技法の中から1つを選択し、制作する。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『絵画研究 I・II 平成 30 年度』の「絵画研究 I」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 3 章「水性絵具」、第 4 章「古典技法」等を参照。

[面接授業]

第 1 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（各古典技法による制作）

第 2～5 日 午前：制作 午後：制作

第 6 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『絵画研究 I・II 平成 30 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）

0630 | 絵画研究 II

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、川口起美雄教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、小島隆三講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星晃講師、山本明比古講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

油性系、水性系選択。

油性、又は水性のいずれかの絵具の性質を選択し、素材が持つ表現の可能性を研究する科目。油性系は、油彩画における基本的な技法を学ぶ。指定された色の混色を通して、絵画における彩色への展開と絵画空間の構築を学んでいく。又、キャンバスや絵具などに対する素材としての認識を高める事により、物質と表現との密接な関連を理解し、絵画が単に直感だけによるものではなく、適切な素材や技法を通して豊かな表現に至ることを知る。

通信授業では、色数制限による油彩に取り組む。面接授業では、支持体や絵具層、下層描きと上層彩色の関連、油絵具の特性と表現の関連等を考察・研究する「絵画組成」を実習を通して学ぶ。

水性系は、水を使うことを基本にした絵具の表現の幅を学ぶ。

通信授業は指定された描画材や着彩の工夫を通して、造形すること彩色することを学んでいく。また、水を利用することや支持体がもたらす表現の可能性を様々な手法を体感しながら、構築すること表現を知ることを知る。面接授業では絵画表現における造形研究として、伝統的な墨がもたらす白黒の色の幅と、素材として重厚な支持体の特性を体感しながら描くことの可能性を探ることを目的に基本的な使用方法から応用までを学ぶ。

課題の概要

○通信授業課題

〈油性系〉「色数制限」

- 1-1 イエローオーカー、ライトレッド、コバルトブルーの3色による色相環を作る。
- 1-2 ライトレッド+コバルトブルー+シルバーホワイト等の3色に色数制限し、油彩で制作する。
- 1-3 「1-2」と同じモチーフを、ライトレッド+イエローオーカー+コバルトブルー+シルバーホワイト等の計4色に色数制限し、油彩で制作する。

〈水性系〉「構築」

- 1-1 制作の条件による色の組み合わせを考えた構成画を制作する。
- 1-2 静物をモチーフにスタンピングでデッサンする。
- 1-3 組み合わせた透明素材をモチーフに支持体と描画材をともに3種類選択し、デッサンする。

○面接授業課題

〈油性系〉「古典模写」

- 1-1 ルーベンスやレンブラント等の17世紀絵画の特徴は油絵具の可塑性と透明性を最大限に活かしていることにある。作品の模写を通してカマイユあるいはグリサイユ等を用いた重層的な絵画構築を学ぶ。

〈水性系〉「墨で描く作画」

- 1-1 墨を使って様々な紙にデッサン、手本からの学習を重ね、150号程度の作品を描く。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『絵画研究Ⅰ・Ⅱ 平成30年度』の「絵画研究Ⅱ」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第1章「デッサン・油彩」、第3章「水性絵具」、第4章「古典技法」等を参照。

[面接授業]

〈油性系〉

第1日	午前：前提講義及び制作（古典模写）	午後：制作（下層描き）
第2日	午前：制作	午後：制作
第3日	午前：制作	午後：制作
第4日	午前：制作及び講義	午後：制作及び講義
第5日	午前：制作	午後：制作
第6日	午前：制作	午後：採点・講評

〈水性系〉

第1日	午前：前提講義及び写生	午後：写生
第2日	午前：墨による制作	午後：墨による制作
第3日	午前：手本からの学習	午後：手本からの学習
第4～5日	午前：自由制作	午後：制作
第6日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「絵画研究Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（2、3年次編入学生を除く）。

[備考] 「絵画研究Ⅰ」、「絵画研究Ⅱ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合など順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局刊行 2002年）

学習指導書：『絵画研究Ⅰ・Ⅱ 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

2300 | 絵画研究 III

2 単位（面接授業 2 単位）

三浦明範教授、川口起美雄教授、大野彩講師、喜井豊治講師、米内則子講師

授業の概要と目標

「絵画研究 I」を履修した者が、同科目で選択しなかったテンペラ、フレスコ、モザイク、ステンドグラスの4つの技法から1つを選択し、さらに研究を重ねることを目的とした科目。授業としては絵画研究 I と同じ内容であるが、面接授業のみで行われる。

西洋中世からルネサンス期に至るまでの主要な絵画技法であったテンペラ画を中心に、古典技法のフレスコ、モザイクや、中世ゴシック期に花開いたステンドグラスを体験学習することにより、単なる技法の習得に止まらない、素材と表現の在り方を通して造形表現の広がりを学ぶ。

課題の概要

○面接授業課題「古典技法等の実習」

1-1 「古典技法」等の実習を通して素材と表現の在り方を学ぶ。テンペラ、フレスコ、モザイク、ステンドグラスの4つの表現技法の中から1つを選択し、制作する。

授業計画

第1日目	午前：前提講義及び制作	午後：制作（各古典技法による制作）
第2～5日目	午前：制作	午後：制作
第6日目	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

作品による評価

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「絵画研究 I」の単位を修得していること

「絵画研究 I」で選択していない技法を選択すること。

[備考] スクーリング時に受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：[絵画—素材・技法—]（武蔵野美術大学出版局刊行 2002 年）

2310 | 絵画研究 IV

2 単位（面接授業 2 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、川口起美雄教授、神彌佐子講師、東俊行講師、星晃講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

油性系、水性系選択。

絵画研究Ⅱを履修した者が、同科目で選択した油性系または水性系と異なる系の選択で学習することを条件に、さらに研究を重ねることを目的とし、素材が持つ表現の可能性を研究する科目。授業としては絵画研究Ⅱと同じ内容であるが、面接授業のみで行われる。

油性系は、キャンバスや絵具などに対する素材としての認識を高めることにより、物質と表現との密接な関連を理解し、絵画が単に直感だけによるものではなく、適切な素材や技法を通して豊かな表現に至ることを知る。支持体や絵画層、下層描きと上層彩色の関連、油絵具の特性と表現の関連等を考察・研究する「絵画組成」を実習を通して学ぶ。

水性系は水などを媒体とした絵具の表現の幅を学ぶ。絵画表現における造形研究として、伝統的な墨がもたらす白黒の色の幅と、素材として重厚な支持体の特性を体感しながら描くことの可能性を探ることを目的に基本的な使用方法から応用までを学ぶ。

課題の概要

○面接授業課題

<油性系> 「古典模写」

1-1 ルーベンスやレンブラント等の 17 世紀絵画の特徴は油絵具の可塑性と透明性を最大限に活かしていることにある。作品の模写を通してカマイユあるいはグリザイユ等を用いた重層的な絵画構築を学ぶ。

<水性系> 「墨で描く作画」

1-1 墨を使って様々な紙にデッサン、手本からの学習を重ね、150 号程度の作品を描く。

授業計画

<油性系>

第 1 日目	午前：前提講義及び制作（古典模写）	午後：制作（下層描き）
第 2 日目	午前：制作	午後：制作
第 3 日目	午前：制作	午後：制作
第 4 日目	午前：制作及び講義	午後：制作及び講義
第 5 日目	午前：制作	午後：制作
第 6 日目	午前：制作	午後：採点・講評

<水性系>

第 1 日目	午前：前提講義及び写生	午後：制作（下層描き）
第 2 日目	午前：墨による制作	午後：墨による制作
第 3 日目	午前：手本からの学習	午後：手本からの学習
第 4～5 日目	午前：自由制作	午後：制作
第 6 日目	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

作品による評価

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「絵画研究Ⅱ」の単位を修得していること
「絵画研究Ⅱ」で選択していない系統を選択すること。

[備考] スクーリング時に受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：[絵画—素材・技法—]（武蔵野美術大学出版局刊行 2002 年）

2320 | 版画研究 I

2 単位 (面接授業 2 単位)

遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治准教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、渡邊洋講師

授業の概要と目標

版表現では、平、凸、凹、孔、の形式がある。それぞれ性質を異にするものであるが、版という共通の概念で結ばれている。

授業は面接授業のみで行い、「木版」か「リトグラフ」のどちらかを選択し、版種の特性と表現の関係を体感しながら、その基本技法を習得する。また、「版」を用いることで造形的課題を明確にする。

課題の概要

○面接授業課題「技法と表現の発展①」

1-1 「木版」「リトグラフ」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作をする。

・「木版」イメージサイズ：22.5cm × 30cm

・「リトグラフ」：イメージサイズ：30 × 40cm 程度

授業計画

[面接授業]

・「木版」または「リトグラフ」(選択)

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第2～5日 午前：制作 午後：制作

第6日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

面接授業の総合評価

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「版画I」の単位を修得していること。

[備考] スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある

教材等

教科書：『新版 版画』(武蔵野美術大学出版局 2012年)

2330 | 版画研究 II

2 単位（面接授業 2 単位）

遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治准教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、渡邊洋講師

授業の概要と目標

版画は紙やキャンバスに直接描くのではなく、「版」という媒体を使った間接的な表現である。そこには様々な魅力や偶然性、造形的発見などが混在している。

授業は面接授業のみで行い、「銅版」か「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、その基本技法を習得する。また、「版」を用いることで、イメージの膨らみや発想の広がりを感じ、造形上の課題を明確にする。

課題の概要

○面接授業課題「技法と表現の発展②」

1-1 「銅版」「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作をする。

・「銅版」イメージサイズ：18.2cm × 24cm

・「スクリーンプリント」：イメージサイズ：A4 程度、30cm × 42cm 程度（各 1 点）

授業計画

[面接授業]

・「銅版」または「スクリーンプリント」（選択）

第 1 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第 2～5 日 午前：制作 午後：制作

第 6 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

面接授業の総合評価

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「版画 II」の単位を修得していること。

[備考] スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある

教材等

教科書：『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012 年）

0640 | 彫塑 I

2 単位（面接授業 2 単位）

脇谷徹教授、戸田裕介教授、山本一弥准教授

授業の概要と目標

人体の頭部を観察し、粘土（塑造）及び石膏（直付け）で彫刻を制作します。

人体頭部は古くから彫刻の主題として取り扱われてきました。また、かつて彫刻を学ぶ者にとって、人体頭部を制作することは、全身像を制作するための予備的あるいは初歩的な修業と捉えられることもありましたが、しかし、この授業において人体頭部を対象に制作する理由は、みなさんが彫刻の初心者だからではありません。自分の顔や頭はもとより、家族、通りすがりの街の人々など、毎日見て知っているとつい思い込んで「人体頭部」を深く観察することにあります。「人体頭部」に潜む個性、多様性、複雑さなどに気づき、自然のかたちや仕組みの奥深さを発見してください。日常生活の中での「見る」という行為のあいまいさ、そして「見る」ことそのものについても考える契機としてください。

この授業において重要なことは、「人体頭部」という概念をまとめ上げるのではなく、目の前にいる生身のモデルの頭部を、自分の目をおして深く観察し、そこから得たものを粘土や石膏で、かたちに置き換えてゆくことにあります。造形の世界でいうかたちとは対象にあるだけではなく、それを見て触発された自分の内に生じるものでもあります。つまり、モデルの頭部を観察すると同時に、自分が作ったかたちもよく観察する必要があります。モデルの頭部となぜ違うのか、何が足りないのか、あるいは何が多すぎるのか、と試行錯誤を繰り返し制作することが、さらに対象の観察を深めることを体験してください。

なお、彫塑 I・III ともに授業の基本姿勢は共通しているので、彫塑 I のみを受講しようと考えている人も、前提講義までに、彫塑 III のページも合わせて読んでおいてください。

課題の概要

○面接授業課題

人体モデルの「頭部」をモチーフとして、粘土及び石膏直付けにより制作します。

授業前半では粘土（塑造）により制作します。石膏型取り作業後、石膏直付けにより継続して制作します。

授業計画

[面接授業]

第 1 日	午前：前提講義 研究室の教育方針・課題内容・主旨の説明及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意	午後：制作（塑造）
第 2 日	午前：制作	午後：制作
第 3 日	午前：制作	午後：石膏型取り作業 夜：石膏型取り作業（～ 18:30）
第 4 日	午前：石膏型取り作業	午後：石膏型取り作業 夜：石膏型取り作業（～ 18:30）
第 5 日	午前：清掃、制作（石膏直付け）	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：清掃、講評・採点

成績評価の方法

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「造形基礎 I～IV」の単位を既に修得していることを条件とします。まだ修得していない学生は同時に履修登録してください（3 年次編入学生を除きます）。

[備考] 月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読してください。

教材等

前提講義時に、参考作品等のスライド上映を行います。

その他

授業初日より、必ず、作業服・作業靴（運動靴可）を着用してください。

0650 | 彫塑 II

2 単位（面接授業 2 単位）

伊藤誠教授、黒川弘毅教授、富井大裕准教授

授業の概要と目標

現実的（アクチュアル）な世界は、「変化して止まぬ不定性」と「揺るぎない不動性」という両面性を持つ。彫刻の制作には、この両面への探究が不可欠である。触覚はしばしば言われているような手で触れる感覚ではない。見えないが、実在的（リアル）な対象であるエモーション（情動）を実体化する働きを持ち、正確には「内触覚」と呼ばれる。量塊は、内触覚の働きによって、豊かな両面性を獲得する。この課題は、量塊の問題について考察し、立体表現を追求する。

課題の概要

○面接授業課題

課題として用意された詩・短歌等を契機として、作品制作を試みる。

詩・短歌等の言葉を造形的に解釈し、粘土塑造と石膏型取り、及び石膏彫刻により作品を制作する。

授業計画

[面接授業]

第1日 午前：オリエンテーション 午後：技法説明
 第2日 午前・午後：制作
 第3日 午前・午後：制作
 第4日 午前・午後：制作
 第5日 午前・午後：制作
 第6日 午前：清掃・展示 午後：講評

成績評価の方法

出席の状況を確認しながら、提出し展示された作品の内容を担当教員と講師により合議の上、採点評価を定める。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「造形基礎Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（3年次編入学生を除く）。

[備考] なし

教材等

教材は実習時に配付する。道具は実習時に指示する。

0660 | 彫塑 III

2 単位 (面接授業 2 単位)

協谷徹教授、戸田裕介教授、山本一弥准教授

授業の概要と目標

山羊または羊の頭部を観察し、一辺が 20cm の立方体に製材された木を素材に彫刻を制作します。木を素材に制作すると、粘土や石膏で制作するときと比べ硬い素材であるため作業量が増えます。また、木が、粘土や石膏のように簡単に付け加えることが難しい素材であるため、原則的にはすでに存在する量を、切削し取り去ること、すなわちマイナス作業だけで制作を進めるといった特質があります。

かつて美術大学では、木彫・石彫といった素材を使う制作は高学年になってから課されました。木彫は、可塑性の高い素材 (例えば粘土) で立体造形に関する一定の訓練を積んだ後に行うことが前提とされていました。そういう旧来の観点から、木で制作する授業を初学者に課すことは無謀だと受け止める意見もあります。たしかに、鋸で引く、あるいは鑿を入れる際に必要な判断を下すためには、造形上の厳密さと、それに先立つ対象を見ることの厳密さが求められます。

しかし、木で彫刻を作成するときのそういった特質こそが、彫刻制作の初心者に思い切った判断や決断を促す優れた彫刻素材だという理由でもあります。切り出され彫り出された形が、明確な立体上の性格を帯びやすいことも、初学者の彫刻制作の体験を鮮やかなものとしてくれるでしょう。

この授業で、モチーフとして観察対象にする自然物は、それぞれの生成にともなう構造や、それらが育つ途中で受けた自然条件が個別の形体を作り出しています。各自が選んだ身近な自然物であるモチーフを繰り返し観察し、彫刻を制作する課程で、自然の摂理をはじめとする造形上の様々な要素を発見してください。

※この授業は木工技術を習得する授業ではありません。また、受講に当たって、事前に木工技術を事前学習しておく必要もありません。(木で彫刻を作るための最小限の道具の使い方や技術指導・説明は、必要に応じて授業内で行います)

彫刻 I・III ともに授業の基本姿勢は共通しているため、履修を希望する人は、彫塑 I の頁も合わせて読んでおいてください。

課題の概要

○面接授業課題

自然物をモチーフに、一辺 20cm の立方体に製材された木材で、寄木造りという技法を用いて制作します。

授業計画

[面接授業]

第 1 日	午前：前提講義 研究室の教育方針・課題内容・主旨の説明及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意、鋸挽き説明	午後：制作 (木彫)
第 2 日	午前：制作	午後：制作・木材接着説明
第 3 日	午前：制作	午後：制作 鑿研ぎ説明
第 4 日	午前：制作	午後：制作
第 5 日	午前：制作	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：清掃、講評・採点

成績評価の方法

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「造形基礎 I～IV」の単位を既に修得していることを条件とします。まだ修得していない学生は同時に履修登録してください (3 年次編入学生を除きます)。

[備考] 月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読してください。

教材等

前提講義時に、参考作品等のスライド上映を行います。

その他

授業初日より、必ず作業服・作業靴 (運動靴可) を着用してください。

0670 | 彫塑 IV

2 単位（面接授業 2 単位）

伊藤誠教授、黒川弘毅教授、富井大裕准教授

授業の概要と目標

素材：型＝木材 作品＝石膏

モチーフ：任意で設定（例：当日の持ち物などで「現物」であること）

「空間」や「型」をテーマとした学習。

はじめに木材による型を造形し、のちに石膏をキャスト（注型）して作品を制作する。制作から作品展示までの過程をとらして、どのように空間が生まれるのかを体験し、立体表現を追及する。

課題の概要

私たちの身のまわりの事物をいつもとは違う視点（雄型「内側」と雌型「外側」の関係として）で捉えてみましょう。例えば木の実と殻、たい焼きとたい焼き器、プラスチックの工業製品と鋳型、木版画と版木、着衣したときの衣服（靴、手袋、帽子等も）、握手したときのお互いの接点、自分とそのまわりの空気など様々な事象が挙げられます。このような視点は普段あまり意識されませんが、内側と外側を感じたり、なぞったりする触覚的な要素は彫刻制作において重要な一面を持っています。今回はこの殻や版、空気などに相当する外側の「型」を手掛かりとした彫刻を制作します。

今回の課題は身の回りの物をモチーフとします。制作は、いきなり木材を使用して外側の「型」を組み立てるところからスタートします。これは、さかさまの造形ともいえます。最後に組みあがった「型」＝「空間」のなかに石膏を流し込みまたは張込み充滿させます。そして「型」を解体して作品（内側のかたち）を取り出します。

ここでは、「型」の制作に多くの時間を費やします。想定した見えない彫刻を手探りで組立てることや、木材という不自由な素材は困難が伴いますが、そのような制約によって思いがけない立体物の出現に驚きを覚えることとなるでしょう。最後に展示形式で講評を行い、作品と場の問題についても議論します。

授業計画

[面接授業]

第1日 午前：オリエンテーション 午後：技法説明

第2日 午前・午後：制作

第3日 午前・午後：制作

第4日 午前・午後：制作

第5日 午前・午後：制作

第6日 午前：清掃・展示 午後：講評

成績評価の方法

出席の状況を確認しながら、提出し展示された作品の内容を担当教員と講師により合議のうえ、採点評価を定める。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「造形基礎Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（3年次編入学生を除く）。

[備考] なし

教材等

教材は実習時に配布する。道具は実習時に指示する。

モチーフについての詳細は授業初日に説明し、話し合いながら決定します。モチーフは、当日の持ち物や教室内の物のなかから決定します。とくに作ってみたいモチーフがある場合は初日までに持参してください（複数可）。ものは自由ですが3～4日継続して観察できるものが望ましいです。

2340 | 彫塑 V

2 単位（面接授業 2 単位）

脇谷徹教授、戸田裕介教授、山本一弥准教授

授業の概要と目標

「彫塑 I」の単位を修得していることを履修条件とする彫塑授業であり、モデルの頭部を観察して彫刻を制作します。

人体の頭部に象徴される自然界の奥深さ多様さの観察の結果として、あるいは観察をより進めるために粘土や石膏でかたちに置き換えていくということでは基本的には「彫塑 I」の上級展開の授業と位置づけられます。

生氣あふれる人体の一部として、モデル個別の全身動勢のもとで屹立する頸部に支えられる頭部の構造的な造形形体とはどのようにとらえられるのか。造形要素を探るための果敢な仮設立てとしての粘土や石膏による肉付けや削ぎ落としの反復試行は「見ること」とどのように関係するのか。粘土や石膏の量塊はそれらの周囲の空間をどのように性格づけていくのか。各自、積極的に取り組んでください。

履修条件を除く、シラバス記載の「課題の概要」「授業計画」（タイムテーブル）などは、「彫塑 I」の内容と同一ですが、「彫塑 I」の授業で体験し獲得した観察と造形の経験を下地にして、それらをさらに深めてください。

指導も立体・彫塑の基礎学習からさらに踏み込んだ専門的なものとなります。

課題の概要

○面接授業課題

人体モデルの「頭部」をモチーフとして、粘土及び石膏直付けにより制作します。

授業前半では粘土（塑造）により制作します。石膏型取り作業の後、石膏直付けにより継続して制作します。

授業計画

[面接授業]

第 1 日	午前：前提講義 研究室の教育方針・課題内容・主旨の説明及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意	午後：制作（塑造）
第 2 日	午前：制作	午後：制作
第 3 日	午前：制作	午後：石膏型取り作業 夜：石膏型取り作業（～ 18：30）
第 4 日	午前：石膏型取り作業	午後：石膏型取り作業 夜：石膏型取り作業（～ 18：30）
第 5 日	午前：清掃、制作（石膏直付け）	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：清掃、講評・採点

成績評価の方法

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「彫塑 I」の単位を修得していることを条件とします。

[備考] 月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読してください。

受講人数を制限する場合があります。

教材等

前提講義時に、参考作品等のスライド上映を行います。

その他

授業初日より、必ず、作業着・作業靴（運動靴可）を着用してください。